

乳がん検診に向けて 広報げろ 2013.4

乳がん検診に向けて

世界で最も死亡数の多い女性のがんは乳がんです。日本でも女性が罹るがんで最も多いのは乳がんで現在では18人に一人は乳がんになるといわれています。

◎乳がんになると生活に大きな影響が。

私は、乳がんは社会に最も大きな影響を与えるがんの一つであると考えています。それは日本女性の乳がんの発見年齢が40歳代後半から50歳代前半にピークがあるからです。この年齢層は家庭でも社会でも重要な立場にあります。治療においても乳がんはほかのがんと比べて長期の経過観察が必要です。抗がん剤治療が必要な場合、現在標準となっている治療には多額の費用がかかります。また、教育費など子育てで出費の多い家庭を襲うがんでもあるからこそしっかりとした対策が必要です。

◎がんの治療は近くの病院で

生活に与える影響をできるかぎり小さくするためには早期発見と、住居に近い病院での治療が重要と考えています。二人に一人ががんになるといわれる今日、金山病院ではがんの治療は生活を支えるために近くの病院で行うべきであるとの方針で乳がん診療にも力を入れています。

◎乳がん早期発見は自己検診と乳がん検診

乳癌の早期発見には自己検診と乳がん検診を受けることが大切であることは言うまでもありません。私は約40年間乳がんの診療、研究を行ってきた経験から乳がんの診断にはUS(超音波・エコー)診断とMMG(マンモグラフィ)診断が欠かせないと考えています。現在行政ではクーポン券による検診を推進していますが費用や設備の関係で2年に一回MMGかUSのどちらか一方の検査を受けることになっています。どちらか一方でも受けないより受けた方が良いという考え方です。

◎MMGかUSか

MMGで異常なければ安心というわけにはいきません。日本では乳がんが発見されやすい年代の乳房はMMGでは判断が困難なことが多く見落としもあります。それはMMGは乳房の中の構造を全て影として映し出し、その重なりを見ているからです。USでは乳房の断面を見えています。しこりがはっきりわかるのは言うまでもありません。USにも弱点はあります。頻度は少ないのですが、しこりをつくってこない微少な石灰化像のみでMMGで発見できる乳がんもあります。万全を期すためにはMMG,US両方の検査を受けることです。

◎少しでも異常を感じたら受診を

異常を感じてから検診を受けたりクーポン券を持って病院を受診される方がおられますがこれは間違いです。検診は乳房に異常を感じない人が自費で(クーポン券を使って)受けるものです。検診ではMMGかUSのどちらか一方のみの検査となります。クーポン券と医療保険を同時に使うことは法律で禁止されています。少しでも異常を感じたら保険証を持って病院を受診しましょう。

金山病院乳腺外来 院長 古田智彦